

スピーチ

上林会員帰国報告

○ 根岸君をご紹介（上林会員より）

関東自動車よりご紹介いただいた素晴らしい根岸君をご紹介致します。私がやせるような思いの大変なことがあるはずだったのですか、素晴らしい大きな気持ちとジョークに富んだ彼に助けられましてこのように太って帰ってまいりました。まず根岸君をご紹介致します。

○ 根岸君の話

私が関東自動車に勤務しております根岸と申します。皆様に助けられ、40日間、テキサス州ダラスの周辺をまわってきまして、5月5日に無事帰国したわけですが、その際、会長はじめ皆様のお出迎えをいただきましてありがとうございました。

私、行く前には大分不安だったのですが、行ってしまうと向こうのふんいきと慣れてしまうと言いますか、特にテキサスというのは小さいことをくよくよしないというような人が多いようで、いろいろ日程のことなどで多少とまどうこともあったのですが、我々もテキサスナイズされまして、1週間もたたないうちにどんとこいというような感じでのんびり構えて、いろいろと楽しませていただきました。又、いろいろな、近べんの公共施設、学校、警察署、会社等を回りまして勉強させていただき、それと同時に、向こうの家庭にとりましてそのファミリーと話しをする中で、いろいろアメリカについて学びました。

私がその中で気がついたことは、我々自分達が今まで思っていた以上にアメリカについて知らなかったと、又、逆に、アメリカの人たちもそれ以上に日本について知らないということで、我々がとまって話しをしたことが、ほんの少しですが、お互いの相互理解に役立ってくればよいと思っております。

時間もございませんので、一応ごあいさつだけですが、どうもありがとうございました。

○ 上林会員の話し

3月の第3例会には丁重なる壮行会を開いていただきありがとうございました。幸い5人のいいメンバーに恵まれて、非常に有意義なGSEの旅をつづけてまいりました。

40日間に経験してきましたことは、いろいろな面からのアメリカの見方があると思いますが、第1に気がつきましたことは、私たちがまいりましたテキサスというところはあくまでもアメリカの一部です。アメリカ東海岸・西海岸、それぞれ風土なり住んでいる人々の考え方も違います。

私たちがまいりましたところは内陸部のテキサスのさらにその中での内陸のダラスという町の北の一部です。比較的西海岸が日本と縁が深いわけですが、東海岸の人たちはヨーロッパに目が向いて非常にナショナルな感覚で、かつ、自分たちの伝統をかたく守っているという風が強いわけですが、西海岸の人たちは、東洋、アジアの方へ目を向けておりまして、日本とも縁が強いわけですし、こちらの人も数多く行っていますし、アジア人種に非常に近い考え方をもっているともいえます。ところが、内陸部のダラスというところは、アメリカの伝統そのものといえますか、自分たちがきたえあげてきた西部魂というようなものを、面がまえの中にも生活の態度の中にも持っております。そういう意味では非常に興味をもってうかがった地区なわけです。

その中で考えましたことは、日本人のように、たとえば、ロータリークラブの会合とか、我々を迎えるという形にしましても、けっして完全主義ではございません。結果的に見てみますと、合理主義者といえますか、合理的であったということを実感として感じました。たとえば、ダラス空港に着いた時、委員長が私を抱きかかえるようにして迎えてくれたわけですが、その時、私たちはまだスケジュール表ももらっていないと告げたわけですが、実は昨日の晩この印刷ができ上がったのだよと、それでさっそく日本の委員長とガバナーに送っておいたから安心してくれよ、ということでスケジュール表をうけとったのが第1日目です。それでそのスケジュール表をめくってみますと、おおまかなことは書いてあるのですが、私たちが一体どこにとまるのか、どういうスケジュールになっているのか、ぜひん書いてございません。ただ中間に1週間だけダラスの北部の田舎町でのとまる場所がホリディンという宿屋に決まっていたのですが、それ以外

はどこもスケジュールも決まっていないうようなことでしたが、それにもだんだん慣れてきますと、まあそれもよかろうということで、我々もあまり意に介さなくなりました。

いずれにしましても、朝どこかのロータリーのメンバーが我々をひろって来て、どこかの場所へ連れて行って来て、昼にはロータリーの会合に出るというパターンが決まっているわけですから、もう細かいことは気にすまいということで、我々もそうしてきたわけです。地区大会等においても我々のスピーチがあったわけですが、私、正直なところ、内心はこれを非常に気にいたしました。横須賀の文化会館のような大きなところで、5、600人の人を前に何らかの形の様をつけたスピーチをしなくてはならないのではないかと考えておりました。そして、我々の担当のpastガバナーの委員長に何人くらいの人があるのかと聞きましたところ、3、400人は来るだろうということで、時間前にその部屋をのぞいてみたところ、その10分の1の3、40人だったわけです。そして、我々のこの4階にあります段よりももっと小さな段の上にpastガバナー、ガバナーノミニ、RI会頭等がおすわりになっているわけです。これなら気が楽だということで、アメリカ人にうけるような演出に急遽変えましてスピーチをしまして大喝采を受けました。

それにしましても、非常に合理的に金をかけない方法でやるということです。そのあくる日の朝食会で感銘したのですが、学生たちのスピーチコンテストをやって審査員が審査をしているという、そのへんもおざなりの朝食会でなくして、朝食会をひとつの意義あることに使っているということで、非常に地区大会の簡潔さとその合理性の豊かさに驚いたわけです。

アメリカ人は一皮むいてみますと、表面はかっこうのいい挨拶をお互いにしていますが、それから中はひじょうに個人的です。そこまでつっこんでいくのは、これからの皆さんのおつき合いを通じてもなかなか大変だと思います。ロータリーの席等で活躍しているのは会長だけです。幹事は通信の業務を終りましたらその例会に対していっさい知らん顔しています。もちろん委員長も知らん顔です。ですから、我々が受け入れるところの委員長が各ロータリークラブのGSEの委員会の委員長を把握してうんぬんなんていう日本人特有の組織の中の動きはひとつもございせん。そういう意味ではひじょうにいい勉強をしてきたと思います。

もうひとつだけ申し上げますと、ひじょうに風土の大きいところです。テキサスのダラスというところは134の発着のステーションがございます。それだけ大きな飛行場でもたった一人の地主が持っていたということです。ダラスのラブフィールドという過去の飛行場がたいへんせまくなったので、テキサス州内だけの発着は過去の飛行場でまかせて、成田に値するところのダラスポトバス飛行場をつくらうということで、いろいろな賛否両論あったそうですが、それでも無事にできたというのは、たった一人の地主の土地を飛行場にしたからだそうです。その地主はその周辺に何エーカーの土地をまださらに持っているそうです。というのは、成田についての質問が私にひじょうにとびました。その質問に私は適当に答えをしておきましたが、たったひとりの所有のダラスポトバス飛行場との比較をお話ししますと、だいたい日本の土地の狭さと複雑さがわかっていただけのように思います。

道路なども市街地から一度ハイウェイのエキスプレスに入りますと、ほとんど2、3時間信号がございません。そのままある方向に向かっていきますとオクラホマの州境まで達してしまうというわけです。ですから、ダラスでは1950何年に人間が乗る列車はございません。貨物列車だけです。バスも1時間に1本くらいどうにかこうにかあるくらいで、飛行場から自分の北部の住宅地に行くのに、バスも公共の交通機関もひとつもございません。すべて自動車にかかっています。

そのような中で暮してまいりますと、向こうの人間は何かと言いますとこれはテキサスサイズであると申します。その中で向こうの人間が我々に対してどのような言葉を使うかと言いますと、これは歴史の問題、時間の経過の問題でいいますと、これはジャパニーズスタンダードで言えば短い期間だよと言います。ご存知のように、アメリカは200数年、我々はそれに対してその10倍以上の歴史をもっておりますので、そういう意味では向こうの人たちは歴史にかんしては劣等感を持っております。しかし、大きさにかんしては素晴らしい大きい感情を持っております。

最後に結論として考えましたことを申し上げます。ダラスにおいて感じましたことは、住宅においてカリフォルニア州にくらべまして約半分です。10万ドル、約2,000万円出しますと、3つないし4つのベッドルームもつきまして、3つのバスルーム、車庫に2台車が入り、前庭、後庭がつ

きました素晴らしい家が求められます。食事の方も10ドルないしは12、3ドルあればおいしいテキサスビーフの夕食が食べられます。ガソリンも1ガロン約4リットルが50セント以下です。

そうしますと、住宅が良くて、食べるものが良くて、足が確保できる、というのであれば、この中から10人くらいで向こうに行つて我々の町をつくつてもよかろうと、このように考えております。そのための下しらべのために4年後の1982年にダラスで世界会議がございます。そのように私が帰りましてからお話ししたところ、岩瀬会長と近藤さんがいっしょに行つてくださるそうですが、ぜひごいっしょに行きまして下調べをしまして、まあそのようなことで、非常に大きなスケールの中で、愉快的生活のできるダラスを皆さんの目を見て、よかったらダラスに横須賀ロータリー支部をつくりたいとこのように考えております。どうぞよろしくお願い致します。

いろいろありがとうございました。

～〇～〇～〇～〇～〇～〇～〇～〇～〇～〇～〇～〇～

「 5 月 の こ よ み 」

プログラム委員会編集

大津事件起こる

訪日中のロシア皇太子（のちのニコライ皇帝2世）が滋賀県庁で警備にあっていた日本の警察官によって切りつけられた。日露の関係の悪化をさけるため、明治天皇が直接皇太子を見舞った。

死刑を示唆する時の政府から司法権の独立を守り、加害者は無期刑となる。

